

1 市立室津海駅館

「廻船」「参勤交代」「江戸参府」「朝鮮通信使」のテーマ別に、海の駅として栄えた歴史を展示。江戸後期築の建物は、切り妻平入り本瓦ぶき二階建てという室津の町家の特徴を表しています。

所 たつの市御津町室津457 時 9時30分～17時
(入館は16時30分まで) 料 高校生以上200円、
小・中学生100円 休 月曜
(祝休日を除く)、祝休日の
翌日、毎月末日、年末年始
☎ 079(324)0595



増築時に表構えを古い部分に合わせたため軒が低くなり、天井が途中から傾斜しています。



北前船の模型も。

5棟の社殿が横に並ぶ特色ある配置。



2 賀茂神社

賀茂別雷神を主祭神とする神社。治承4(1180)年に平清盛が祈願した際には、すでに今と同じたずまいだったとされています。

所 たつの市御津町室津74 ☎ 079(323)3171 ☎ 079(322)2895

「ご神木のサカキは2本が途中からつながり、『賀茂の愛の榊』と呼ばれています」と岡宮司。



もともとは自転車通学をする地元の中学生のために作ったという「自転車守」。ロードバイク愛好者に人気です。

3 道の駅「みつ」

プライベートビーチがあり、営業時間内なら砂浜で遊ぶことも可能。レストランでは瀬戸内海の幸が味わえます。海鮮バーベキューを楽しめるコーナーも。

所 たつの市御津町室津896-23 時 9時～18時 休 水曜
☎ 079(322)8500 ☎ 079(322)8501



屋外でテイクアウトメニューを食べるのもおすすめ。

室津産の岩ガキやアサリなど新鮮な魚介が並びます。



北前船の寄港地であつての面影を探す

室津港は、その名の由来が「風を防ぐ」と室のごとし」と「播磨国風土記」に記される、古くからの良港。江戸から明治にかけては北前船の寄港地として栄え、まちに残る関連施設など五つが「昨年5月、日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間」北前船寄港地・船主集落」の構成文化財に認定されました。

その一つが「市立室津海駅館」。北前船で財を成した廻船問屋「嶋屋」の三木半四郎の住宅を活用した資料館です。明治初期に増築した2階には、曲面の天井や窓に付けられた腰掛け縁など、特徴的な意匠を残しています。

風を防ぐ岬に立つ「賀茂神社」は、5棟の社殿と唐門、その左右の回廊が国の重要文化財に指定されており、昨年10月に3年間に及ぶ大規模修繕を終えました。「全ての金具を外し、酸で洗ってから金と漆を施しました」と宮司の岡研作さん。かつて平清盛が航海の無事を祈った神社は、往時の姿を取り戻し、海の安全を見守り続けています。港を後に海沿いの国道を車で5分ほど走ると、道の駅「みつ」。「鮮魚コーナーの魚介は室津をはじめ瀬戸内の港で水揚げされたものばかり」と駅長補佐の石浦雅昭さんは胸を張ります。砂浜に下りる階段の踊り場にはテーブルセットも。潮風を受け、ゆつたりと過ごせます。(取材・文県民だより編集部)

グルメ

穴子ひつまぶし

甘辛のたれが絡んだ焼きアナゴはご飯との相性抜群。1膳目はそのまま、2膳目は菜味と一緒に、3膳目はだしを注いで。一つのメニューで異なる味わいを楽しめます。1,500円。

☎ 道の駅「みつ」



お土産

mitsu MORNING CARROT

揖保川の河口に広がる干拓地「成山新田」で育った朝取りニンジン

を、ひと瓶に約10本使用。砂糖は不使用、ニンジン100%のぜいたくなジュースです。1本(500ml)1,280円。

☎ 道の駅「みつ」

2本セットを抽選で3人にプレゼント

詳細は6面のクイズへ



名物の焼きアナゴは店頭で毎朝手焼き。





イノシシやシカなどの隠れ場となっていた耕作放棄地を整備し、農業体験の場として提供（写真は平成30年）。

地域の皆さんによるふるさと活動をご紹介します

みんなでふる活



NPO法人 里地里山問題研究所 (丹波篠山市)

農村支援や子育て支援を行う団体。12人が所属。

獣害対策を通して農村を活性化

耕作放棄地を活用した取り組みで地域外から人を呼び込み、農村が抱える問題の解決を図っています。

活動の足跡

■ 平成27年5月
NPO法人設立
地域に根差した獣害対策を支援



農村を継続的に訪れる人が増えた！

■ 28年
耕作放棄地を整備
黒豆オーナー制度を開始

■ 31年
「川阪オープンフィールド」開始
市内の川阪集落で地域内外の住民が連携して活性化を推進



限界集落に人を呼び込むきっかけに

■ 令和2年11月
代表の鈴木さんが「第5回 貝原俊民美しい兵庫づくり賞」を受賞

■ 今年
新たな耕作放棄地で活動を拡大
黒豆オーナー登録者数100人を目指す

📍 NPO法人里地里山問題研究所
☎️ 079(550)9037 さともん 🔍

「獣害対策の方法は確立しているもの、高齢化による担い手不足が課題でした」と鈴木さん。特産の黒豆を予約購入できる「黒豆オーナー制度」を導入することで、希望するオーナー（購入者）には地域に通って農作業や獣害対策を担ってもらおうと同時に、住民との交流を通して農村の魅力を感じてもらっています。「オーナーの中には新規就農を決意した人もいます」と話すのは、地域再生協働員として同法人の運営に携わる内山裕海さん。自らも昨年9月に宝塚市から移住し、農村生活の一步を踏み出しています。

「獣害をなくすことは本来、目的ではなく手段。最も大切なのは地域にその先の方向性を示すことです」。鈴木さんたちは獣害対策にとどまらない、農村の未来を見据えた取り組みを続けていきます。

（取材・文 県民だより編集部）

地域外から農村に通う人口を増やす

野生動物の侵入を防ぐ柵の点検等、地域住民が行う獣害対策を支援。また、動物の隠れ場となっていた耕作放棄地を再生し農業体験の場とすることで都市部から人を呼び込み、地域の活性化にもつなげています。



畑の周りに設置した電気柵。

地域に入り込み実践的な支援を

丹波篠山市の里山地域で活動するNPO法人里地里山問題研究所（さともん）。大学での研究や県森林動物研究センターでの勤務を通して獣害対策の技術や方法論を究めた鈴木克哉さんが、地域に根差した対策を実践するため平成27年に設立しました。



元気コラム 県政20年

兵庫県知事 井戸 敏三

この7月31日をもって知事を退任するので、これまでの知事としての活動を振り返らせていただく。

阪神・淡路震災復興計画の実現・参画と協働

阪神・淡路大震災からの創造的復興を図るために策定された復興計画の達成を使命として、貝原俊民知事からバトンを引き継いだ。

復興計画には、県立美術館や芸術文化センターの整備が含まれていたが、人々の心の復興を後押ししてくれたのは、音楽や芸術の力ではないだろうか。

ほとんどの計画が実現したが、課題は1兆3,000億円にのぼる県債残高だった。現在でも2,800億円の償還が財政的に大きな重荷となっているため、条例に基づき策定された行財政運営方針の枠内で令和10年まで行財政が運営されることとされている。

21世紀に入り、県民が描いた2030年頃の兵庫の未来

像を「ビジョン」として提示することとした。その実現のため、県民自らが参画し、県政と協働していただく「参画と協働」を県政推進の基本姿勢としてきた。現在は、2050年頃を想定した新しい長期ビジョンの検討が進められており、ポストコロナ社会の形成に向けて期待したい。

のじぎく兵庫国体・自然災害

平成18年に、阪神・淡路大震災からの復興過程でご支援を受けた内外の皆様へ感謝するため、「ありがとう」心から・ひょうごから」というスローガンのもと「のじぎく兵庫国体」が開催された。県民の心が一つになり挙行できたのは、五国からなる兵庫の特色の発揮によるものだろう。

大被害をもたらした平成16年の台風23号。災害の間接的な原因には山の荒廃があったため、「県民緑税」を活用し、災害に強い森づくりを推進することになった。その後も、21年の台風9号、26年の丹波市豪雨災害、30年の大阪湾高潮など大きな自然災害が続いたが、津波対策、河川、山地、土砂、高潮、ため池など分野別の事前防災事業を計画的に推進し、県土の安全度は飛躍的に向上した。

行財政構造改革・関西広域連合

大震災からの創造的復興の過程で生じた財政負担、三

位一体改革による地方交付税の減、リーマン・ショックによる世界的な不況に対しては、行財政構造を全般的に変革していく必要があった。平成20年度には、「行財政構造改革の推進に関する条例」を制定し、県議会に指導いただき、県民からの監視のもと取り組み、平成30年度に目標の収支均衡を達成することができた。心から感謝したい。

関西広域連合は、昨年12月に10周年を迎えた。地方分権への行動、南海トラフ地震対策など1府県だけでは完結しない活動、国の事務事業の積極的移管の目的を持って設立された。関西の広域行政主体としては定着したが、国の事務の移譲など地方分権は進んでいない。私は10年を機に連合長を退任させてもらった。地方分権のリードをする存在として活動してほしい。

おわりに

振り返ると、時代の潮流とその課題が未来を形成することにつながるという実感を強くする。兵庫県はまさに永遠、ゴーイング・コンサーンである。兵庫の五国を統合し、日本の発展をリードし、世界につながる兵庫であってほしい。

ふるさととは 五国の魅力に満ちみちて

県(そこ)に住む人 幸せつくる

※全文はホームページでご覧いただけます

兵庫県 知事エッセー 🔍